

資本にとって外国市場が必要な理由

剰余価値を補填する生産物（あるいは生産物の一部分）ばかりでなく可変資本を補填する生産物も、また可変資本を補填する生産物ばかりでなく不変資本（アダム……の親類であることをおぼえていないわが国の「経済学者たち」は、これをわすれているのだが）を補填する生産物も、また消費資料の形態で存在する生産物ばかりでなく生産手段の形態で存在する生産物も、——すべてが一樣に、ただ「困難」のなかでのみ、資本主義の発展につれてますます強くなる動揺のなかでのみ、また、企業家をして生産の無制限な拡大にむかうことをよぎなくさせ、その国家の境界をこえて、まだ資本主義的商品流通にまきこまれていない国々の新しい市場を探しもとめにむかわせるところの熱狂的な競争のなかでのみ、実現されるのである。われわれはいまや、なぜ資本主義国にとって外国市場が必要なのか？ という問題に近づいた。これは、けっして、一般に生産物が資本主義体制のなかでは実現されえないからではない。それは、ばかげたことである。外国市場が必要なのは、資本主義的生産には、共同体、世襲領地、種族、領域あるいは国家の限界内にとどまっている、従来のすべての生産様式とは反対に、**無制限な拡大への志向が固有なものであるからである**。従来のすべての経済制度のもとでは、生産は、いつも、以前に行われたところと同じ姿で、また同じ規模で更新されていたのであるが、資本主義体制においては、こういう同じ姿での更新は**不可能となり、無制限な拡大と永久の前進運動が生産の法則となる**のである。

第二巻 経済学的ロマン主義の特徴づけによせて P147

コメント

資本にとって外国市場が必要な理由は、「一般に生産物が資本主義体制のなかでは（外国市場なしでは）実現（商品が売りさばけること）されえないからではなく、「資本主義的生産には、従来のすべての生産様式とは反対に、**無制限な拡大への志向が固有なものであるからである**。」

なお、ここでは「価値実現」の側面から「外国」を見ているが、現在のグローバル資本主義のもとでは「外国」は搾取の場としても存在しており、自国の「産業の空洞化」をもたらしている。

※「15-7」と合わせてお読み下さい。